

# 《医師の意見書》

<医師用>

<b>意 見 書</b>	
<u>上北沢こぐま 保育園施設長殿</u>	<u>入所児童氏名</u>
病名「	」
年 月	日から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので 登園可能と判断します。
年 月 日	
<u>医療機関</u>	
<u>医師名</u>	<u>印又はサイン</u>

保育所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人ひとりの子どもが一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での保育所生活が可能となる状態となつてからの登園であるようご配慮ください。

## ○ 医師が記入した意見書が望ましい感染症

感染症	感染しやすい期間	登園の目安
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状がある期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した次の日から3日を経過するまで ※発症日・解熱日共に0日目とする
風しん	発しん出現の前7日～後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発しん出現の1～2日前から痂皮（かさぶた）形成まで	すべての発しんが痂皮（かさぶた）化するまで
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の種腫が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師が感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師が感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師が感染の恐れがないと認めるまで

## 《保護者の登園届》

登園の際には、下記の登園届の提出をお願いいたします。

(なお、登園の目安は、子どもの全身状態が良好であることが基準となります。)

<保護者用>

登 園 届 (保護者記入)	
上北沢こぐま	保育園施設長殿
入所児童氏名 _____	
<p>病名「 _____ 」と診断され、</p> <p>年    月    日 医療機関名 「 _____ 」において</p> <p>病状が回復し、集団生活に支障がない状態と診断されましたので登園いたします。</p>	
保護者名 _____ 印又はサイン _____	

保育所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、一人ひとりの子どもが一日快適に生活できることが大切です。

保育所入所児がよくかかる下記の感染症については、登園の目安を参考に、かかりつけの医師の診断に従い、登園届の提出をお願いします。なお、保育所での集団生活に適應できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。

### ○ 医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が望ましい感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園の目安
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬の内服 24~48 時間経過していること
マイコプラズマ感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口の内に水泡・潰瘍が発症した数日間	発熱や口の中の水泡、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑 (リンゴ病)	発しん出現前の1週間前	全身状態がよいこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失1週間(量は減少していくが、数週間ウイルスを排出しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排出しているため注意が必要)	発熱や口の中の水泡、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症やヒト・メタニューモウイルス	呼吸器症状のある間	解熱後 24 時間以上経過。 呼吸器症状が消失し、全身受状態が良いこと。
帯状疱疹	水泡を形成している間	すべての発疹が痂皮化してから
突発性発疹		解熱し機嫌が良く、全身状態が良いこと
伝染性膿痂疹 (とびひ)	浸潤した発しんがある間	痂皮の乾燥(カサブタになる) 浸潤部分が覆える状態